

教育臨床プロジェクト報告

教育臨床活動のまとめ（平成16年2月～平成17年1月）

加藤義男*

（2005年2月1日受理）

I. スタッフ

教育臨床プロジェクトの平成16年度研究員は、専任の加藤義男（附属教育実践総合センター）のほかに、鎌田文聰（障害児教育講座）、宮崎眞（障害児教育講座）、杉本則子（附属養護学校教員）の3名である。外部からの研究協力者として臨床心理士、教員、大学院生等21名を委嘱した。

また、地域貢献特別事業にかかる非常勤職員（心理相談員）として、菅原由美子（臨床心理士）、阿部幸成（附属養護学校講師）の2名の先生を委嘱した。

II. 相談・支援活動

ここでは、附属教育実践総合センター「心理・教育相談室」における相談・支援活動について報告する。個別相談、コンサルテーションは加藤が中心となって、2名の心理相談員の協力も得て実施したものであり、その他のグループ支援活動や相談会等は加藤が責任者となって、研究協力者、心理相談員の協力を得て実施したものである。

(1) 個別相談

平成16年2月から平成17年1月までの個別相談の来談者は109人であり、その内訳は次のとおりである。①平成13年～15年からの継続が49人、平成16年度新規が60人であった。②年齢は4歳から40歳。内訳は、幼児20人、小学生58人、中学生22人、高校生5人、18歳以上4人であった。③主となる問題の内訳は、「不登校」15人(14%)、「ADHD及びその疑い」16人(15%)、「高機能自閉症・アスペルガー症候群及びその疑い」49人(44%)、「学習障害(LD)及びその疑い」8人(7%)、「発達の遅れ・境界」12人(11%)、「かん黙」3人(3%)、「いじめ」2人(2%)、「吃音」1人(1%)。「その他（進路、母子関係等）」3人(3%)であった。

月ごとの相談者実数及び相談延べ実施回数を表1. に示した。来談者109人に対して、延べ243回の相談を実施した。一回の相談時間は1時間～1時間半程度であり、行動観察、心理テストの実施、プレイセラピー、母親面接、カウンセリング等を行った。

*岩手大学教育学部附属教育実践総合センター

表1. 個別相談の実施状況

月	月ごとの相談者実数	相談延べ実施回数
2月	20人（5人）	25回
3月	12人（4人）	15回
4月	14人（3人）	16回
5月	11人（3人）	19回
6月	9人（2人）	18回
7月	20人（12人）	27回
8月	21人（6人）	25回
9月	12人（6人）	15回
10月	18人（5人）	23回
11月	21人（9人）	31回
12月	17人（5人）	19回
1月	6人（0人）	10回
計	181人（60人）	243回

※（ ）内はその内の新規相談者の数を示す。

※ 相談の中に、電話相談5件を含む。

(2) コンサルテーション

36校園（幼稚園・保育園16、小学校15、中学校3、養護学校2）に出向いて、事例検討中心のコンサルテーションを実施した。さらに、教育学部内相談室において、小学校、中学校、幼稚園、養護学校の教員との事例中心のコンサルテーションを11回実施した。

(3) 不登校児への支援活動（「みんなでチャレンジ」の取り組み）

不登校児支援の会「みんなでチャレンジ」において、不登校児及びかん黙児への支援活動を実施した。対象児は6人（中学3年1人、中学2年1人、中学1年1人、小学6年3人。男3人、女3人。不登校4人、かん黙2人）。支援スタッフは8人（教育学部大学院生1人、教育学部生6人、心理相談員1人、及び加藤）である。

活動状況は次のとおりである。

①グループ活動…9回（月1回、土曜日）実施し、延べ参加児は42人であった。内容は、スケート、プール、ボーリング、運動、ゲーム大会等である。平行して、親との面接も行った。

②個別支援…平日の午後、相談室において心理相談員との一対一の支援を実施した。支援の内容は、学習面・心理面のサポートであり、中学3年生の1人が週一回程度来所した。

(4) 「LD等相談会」の取り組み

「LD等相談会」（土曜日、午後実施）を4回実施した。スタッフは臨床心理士、作業療法士、養護学校教員の8人（附属教育実践総合センター研究協力者）及び加藤である。

来談児童は8人。その内訳は、幼稚園3人、小学生4人、中学生1人で、いずれも男子。問題別にみると、LDの疑い1人、ADHDの疑い1人、高機能広汎性発達障害の疑い4人、協調運動障害2人である。

(5) ADHDまたはその疑いを持つ児童の親への支援活動（「わっこの会」の取り組み）

「わっこの会」（「いわてADHDを考える会」の通称、加藤は世話人及び事務局を担当）として

次の活動を行った。

- ①親の集い…7回実施した。参加者延べ総数は43人で、親同士の意見交換やグループカウンセリングを行った。
 - ②親と子の集い…お花見会（4月実施。参加9家族）、クリスマス会（12月実施。参加10家族）を実施した。両者とも、教育学部学生の協力を得た。
 - ③講演会…6月に、高山恵子先生（NPO法人えじそんクラブ代表）を招いての講演会を実施した。参加者は120人。
- (6) 高機能広汎性発達障害児の支援活動（「エブリの会」の取り組み）
- 「エブリの会」（「いわて高機能広汎性発達障害児・者を考える会」の通称、加藤は世話人代表）として次の活動を行った。
- ①エブリ教室…毎月一回、土曜日午前中に10回実施した。参加児童は7人（すべて小学生。すべて男子）で延べ参加総数は64人である。スタッフは10人（教育学部大学院生、養護学校教員及び学部学生。院生と教員は附属教育実践総合センター研究協力者）。
 - ②エブリ談話室…中学生以上の高機能広汎性発達障害者をもつ親の話し合いの場として今年度より新たに実施した。毎月一回、平日の午前中に6回実施した。参加者は10人、延べ参加総数は33人であった。10人の保護者の子どもの内訳は、中学生5人、高校生5人、成人1人で男性8人、女性2人である。
 - ③エブリクラブ…エブリ教室修了生の集まりとして3回実施し、延べ参加者総数18人。
 - ④講演会…9月に講演会「高機能自閉症・アスペルガー症候群の理解と支援」（講師：県立南光病院長山家均先生）を実施。参加者308名。

Ⅲ. 教育学部地域連携事業としての取り組み

教育学部地域連携事業のなかの「学校不適応児への教育的支援事」について教育臨床プロジェクトが中心となって取り組んだ。取り組みの主な内容は、次のとおりである。

- (1) 心理相談スタッフとして、2名の非常勤職員（心理相談員）を依頼し、加藤及び研究員とともに以下の事業に取り組んだ。
- (2) 事業
 - ①個別相談…「心理・教育相談室」における相談・支援活動（前述）
 - ②市町村教育委員会との共同事業による研修事業
 - ・矢巾町・紫波町共同事業による特別支援教育研修会（8月。鎌田、宮崎、杉本）
 - ・二戸市特別支援教育研修会（7月。加藤）
 - ・山形村適応指導研修会（7月。加藤）
 - ・久慈市ADHD等相談会（8月。加藤、久慈養護学校教員）
 - ・釜石市特別支援教育研修会（8月。加藤）
 - ・宮古市不適応児童支援事業（9月～1月。4つの小中学校に出向いての相談活動の実施。加藤、菅原、宮古養護学校教員）

IV. 研修活動

- (1) 公開シンポジウム
「不登校へのアプローチ（その2）」、2月、参加者71名。
- (2) セミナー
「第一回軽度発達障害セミナー」、2月、参加者19名。
- (3) 講演会
「思春期からのADHDの理解と支援」、6月、参加者120名（前出）
「高機能自閉症・アスペルガー症候群の理解と支援」、9月、参加者308名（前出）

V. 外部公的機関との連携・協力

- (1) 関係委員会等の委員として参加し、地域との連携・協力を図った。主なものは、市町村就学指導委員会、盛岡市特別支援教育支援チーム委員会、県ADHD児等支援事業調査研究運営会議、県障害児療育のあり方検討委員会、県障害者施策推進協議会等である。
- (2) スクールカウンセラーとして、盛岡市内公立中学校へ35回（1回4時間）、及び附属中学校へ15回（1回2時間）参加し、教育相談を行った。